

新興国レポート

12月インドCPIが14ヵ月ぶりの水準に低下

大幅低下にも拘わらずインド10年国債金利の反応は限定的

- 2020年12月インドCPI（消費者物価指数）は前年同月比+4.6%と、14ヵ月ぶりの水準に低下。RBI（インド準備銀行）の物価目標である2~6%内に収まる。
- 12月CPIの大幅低下にも拘わらず、インド10年国債金利の反応は限定的。2021年度（2021年4月~22年3月）予算案を巡る国債増発懸念が重荷となった可能性も。

(1) 12月インドCPIは14ヵ月ぶりの水準

- ・ インド統計局が1月12日に発表した2020年12月CPIは、前年同月比+4.6%（市場予想は同+5.0%）と11月の同+6.9%から2.3%低下しました。2019年10月以来、14ヵ月ぶりの水準です（図表1）。過去数ヵ月間にわたり続いた季節外れの降雨の影響や、都市封鎖による流通網の混乱等で高騰していた野菜の価格が落ち着き、CPI構成要素の約4割を占める食料品が同+3.4%と11月の同+9.5%から6.1%低下したことが主な要因となっています（図表2）。12月CPIはRBIの物価目標2~6%内に収まりました。

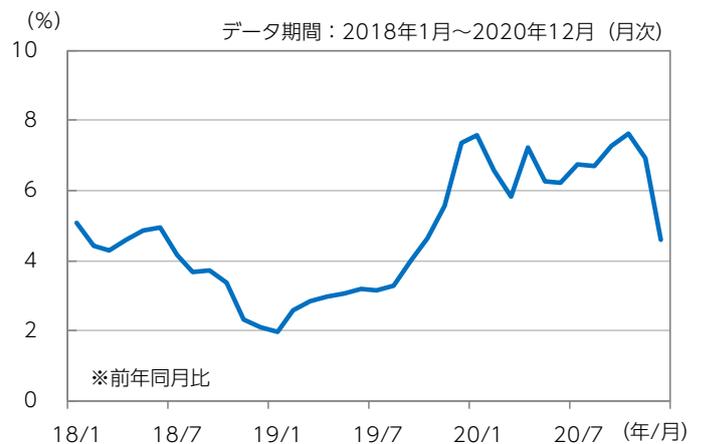
(2) インド10年国債金利の動向

- ・ RBIは、新型コロナウイルス危機への対応で、政策金利を2020年3月と5月に合計1.15%引き下げましたが、その後はCPIの高止まり（図表1）を懸念し、前回12月の会合まで3会合連続で据え置いています。12月CPIの低下で次回（2月3~5日）会合での追加利下げ期待が高まり、米金利上昇の余波等を受けて年明け以降上昇傾向にあるインド10年国債金利が再び低下基調入りすることも想定されました。しかし、インド10年国債金利の反応は限定的なものとなっています（13日時点）（図表3）。RBIの追加利下げ期待の高まりに対し、国債増発による需給悪化懸念が重荷となった可能性があります。
- ・ モディ政権は2月1日に2021年度予算案を発表する予定です。コロナ禍で悪化したインド経済を早急に立て直すべく、今回の予算案は過去最大の歳出規模になると見られています。その資金調達のために国債が増発され、需給が悪化する可能性を投資家は懸念しているようです。

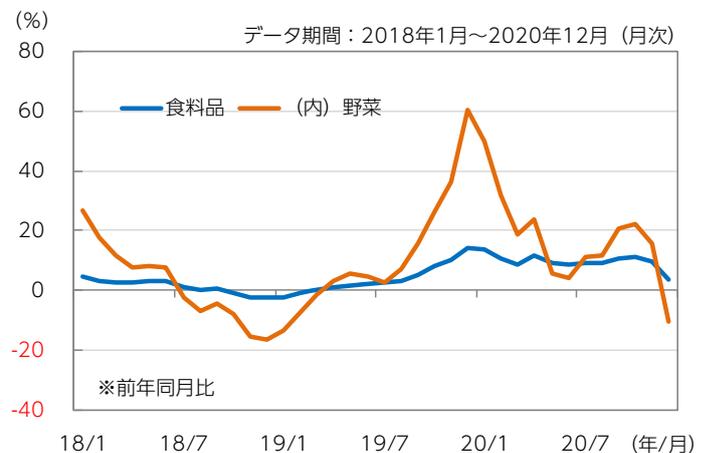
(3) インド10年国債金利の今後の見通し

- ・ RBIの追加利下げ期待と、国債増発による需給悪化懸念が交錯する中、2021年度予算案の概要が明らかになるまで、インド10年国債金利は当面横ばいで推移するものと思われます。

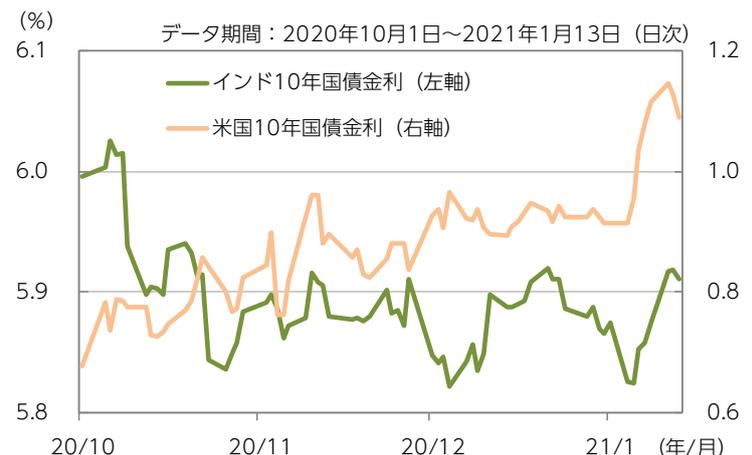
図表1：CPIの推移



図表2：食料品CPIの推移



図表3：インドと米国の10年国債金利の推移



出所 図表1~3はCEIC、ブルームバーグデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター 0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ <https://www.nam.co.jp/>